

# みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

単元「『大航海時代』以後のヒトの移動やモノの交流は、人々に何をもたらしたか?!」の開発:

「アメリカ展示」を高校世界史のカリキュラムに位置づけて

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2009-04-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 田尻, 信壹 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15021/00001647">https://doi.org/10.15021/00001647</a>

## 単元『『大航海時代』以後のヒトの移動やモノの交流は、 人々に何をもたらしたか?!』の開発

——「アメリカ展示」を高校世界史のカリキュラムに位置づけて——

田尻 信壹

筑波大学附属高等学校

はじめに

1 「アメリカ展示」を活用した地理歴史科  
世界史の単元開発 —単元の概要及び単  
元と国立民族学博物館の展示・資料の関  
連について—

2 「アメリカ展示」活用のための手引書

3 「アメリカ展示」活用のためのワーク  
シート

おわりに

資料 現行学習指導要領地理歴史科世界史  
と民博展示・ビデオテークとの対応表

\*キーワード：地理歴史科世界史，アメリカ展示，課題レポート，大航海時代，大西洋世界

### はじめに

2005年1月，国立教育政策研究所教育課程センターは，2003年11月に，高校3年生と教員に実施した「高等学校教育課程実施状況調査」の結果概評（中間報告）の報告書，『平成15年度教育課程実施状況調査（高等学校）—ペーパーテスト調査集計結果及び質問紙調査集計結果—』（以下，『平成15年度教育課程実施調査（高校）』と略記する）を刊行した。同報告書によれば，教員への「博物館や郷土資料館等の地域にある施設を活用した授業を行っていますか」との設問に対し，「行っている方だ」，「どちらかといえば行っている方だ」と回答した教員は，世界史Aで1.3%，世界史Bで0.8%に過ぎなかった。それに対して，「行っていない方だ」との回答は世界史Aで85.9%，世界史Bで84.0%に達した（国立教育政策研究所教育課程センター2005：113, 117）。この傾向は，地理歴史科（以下，「地歴科」と略記する）の他科目でも，ほぼ同様であった（国立教育政策研究所教育課程センター2005：253, 307, 377, 419）<sup>1)</sup>。現行学習指導要領地理歴史科（高校では，現行学習指導要領のもとでの教育課程に2003年度から学年進行で移行し，2005年度をもって完成した）では，「各科の指導に当たっては，情報を主体的に活用する学習を重視するとともに，作業的，体験的な学習を取り入れるよう配慮するものとする」（文部省1999：46）として，博物館等を活用した学習を喚起するなど，今日，「学びの空間」としての博物館の役割が期待されている（森茂岳雄2005：4-5）。しかし，前述の調査結果は，旧教育課程に対するものであったことを差し引いても，高校で博物

館等を活用した学習がほとんど実施されていないことを示しており、深刻な状況といえる。

学校が博物館を積極的に活用していない理由について、考えてみたい。国立民族学博物館（以下、「民博」と略記する）の報告書、『学校における博物館の利用方法をめぐって』（国立民族学博物館民族学研究開発センター 2001：18-19）では、学校側から民博に対して、教員向けの生徒指導のための補助資料を作成して欲しいとの要望が寄せられ、博物館が教員の活動をどう支援・指導していくかが、重要課題となっていることを指摘している。学校と博物館の連携を考える場合、イギリスの博物館活動は参考になる。小島道裕（2000：20-34）によれば、イギリスの博物館では、学校への支援策として3つの方法がとられている。

① 博物館が直接生徒を指導する方法

② 博物館は情報や資料を提供して、先生が指導する方法

③ 学校へ資料セットを貸し出して、学校の教室で使ってもらう（アウトリーチ）方法  
イギリスでは、①の方法は、比較的小規模の博物館で実施している場合が多い。②については、大抵の博物館が行っており、教員の活動を支援・指導するために、教員用資料集を制作するとともに、教員向け講座を開催しているという。教員用資料集の内容は、利用案内、展示の解説、展示の背景となる歴史や文化の解説、学校のカリキュラムとの対応表、ワークシート、展示を使った作業の実例、図表・写真などから構成されている。③については、3割ほどの博物館で実施しているとのことだ。

前述の『平成15年度教育課程実施調査(高校)』での教員に対する質問紙調査の集計結果から明らかなように、地歴科の授業を見る限り、高校では博物館がほとんど活用されていないのが実情である。授業で博物館を積極的に活用していくためには、②と③の取り組みが期待される。③のアウトリーチ教材の開発と貸し出しについては、民博のMINPAC(みんぱく)をはじめとしていくつかの博物館や大学ですでに実施し、成果を上げている。しかし、②については、現在のところ、研究や実践はわずかである<sup>2)</sup>。日本の博物館でも展示案内や展示品カタログを制作・販売しているが、博物館展示と学校カリキュラムの対応表をつくるような取り組みは、皆無といってよい。両者の連携を深めていくためには、博物館展示を学校のカリキュラムの中に位置付ける取り組みが必要である。

本稿の目的は、民博の展示品や諸資料を地歴科世界史の中に位置付け、授業で活用できる「異文化理解教育のプログラム」を開発することである。本稿では、その試みとして、地歴科世界史A・Bの内容に対応して開発した単元、『「大航海時代」以後のヒトの移動とモノの交流は、人々に何をもたらしたか?!』について報告する<sup>3)</sup>。この単元の開発にあたっては、民博の展示・資料を地歴科世界史の内容にどう結び付けるかが重要な課題となる。そのため、筆者は、事前に「現行学習指導要領地歴科世界史と民博展

示・ビデオテークとの対応表」を作成し、それに基づいて単元の開発をおこなった。また、資料として、「現行学習指導要領地歴科世界史と民博展示・ビデオテークとの対応表」を論文末に添付する。

## 1 「アメリカ展示」を活用した地理歴史科世界史の単元開発 —単元の概要及び単元と国立民族学博物館の展示・資料の関連について—

単元「『大航海時代』以後のヒトの移動とモノの交流は、人々に何をもたらしたか?!」は、民博の「アメリカ展示」とそれに関連するビデオテークを、地歴科世界史 A・Bの内容に照らして活用するために開発したものである。単元の構成と配当時間は、以下の通りである。

### 第1次 民博内の活動（4時間程度）

……筆者が作成した、アメリカ展示活用のための手引書、「『大航海時代』以後のヒトの移動とモノの交流は、人々に何をもたらしたか?!」（第2節を参照）と、ワークシート（第3節を参照）を使って活動する。

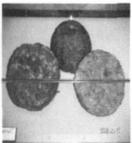
### 第2次 事後学習：レポートの作成（家庭学習）

……ワークシートの記録や民博で収集した写真や資料をもとに、レポートを作成する。レポートのテーマについては、本節の「10. 展開計画・展開記録」を参照のこと。

### 第3次 事後学習：レポートの発表（2時間）

……提出されたレポートの中から数点を選び、クラス内で発表を行う。レポート発表後、民博展示についての感想や意見を述べる。

次に、現行学習指導要領と民博展示・資料の関連、単元の内容と実施方法については、下表に示す。

<p>1. 単元名（活動名） 「大航海時代」以後のヒトの移動とモノの交流は、人々に何をもたらしたか?!</p>	<p>3. 展示および資料との関連</p>
<p>2. 対象：高等学校（全学年） 授業者：田尻信壹</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>砂糖キビ搾り機（左） と砂糖玉（上）</p>
<p>4. 教科領域との関連性： （現行学習指導要領の内容との対応を示す。現行学習指導要領中の本単元の内容に関わる部分には、下線を引いた。）</p>	

・地歴科世界史A

(2) 一体化する世界

16世紀以降の世界商業の進展と産業革命後の資本主義の確立を中心に、世界の一体化の過程を理解させる。その際、ヨーロッパの動向と日本などアジア諸国の対応に着目させる。

ア. 大航海時代の世界

大航海時代のヨーロッパとアメリカ、アジアとの接触・交流を扱い、16世紀の世界の一体化への動きを理解させる。

イ. アジアの諸帝国とヨーロッパの主権国家体制

アジアの諸帝国の政治と社会、ヨーロッパの主権国家体制の成立、大西洋貿易の展開を扱い、17世紀及び18世紀の世界の特質を理解させる。

・地歴科世界史B

(4) 諸地域世界の結合と変容

アジアの繁栄とヨーロッパの拡大を背景に、諸地域世界の結合が一層進んだことを把握させるとともに、主権国家体制を整え工業化を達成したヨーロッパの進出により、世界の構造化と社会の変容が促されたことを理解させる。

イ. ヨーロッパの拡大と大西洋世界

ルネサンスと宗教改革、新航路の開拓、主権国家体制の成立、大西洋貿易を扱い、16世紀から18世紀にかけてのヨーロッパ世界の特質とアメリカ・アフリカとの関係を理解させる。

◇アメリカ展示関係

1. 踏み鋤 (アメリカの生活)
2. ジャガイモ・トウモロコシ等 (アメリカの食物)
3. 砂糖キビ搾り機と砂糖玉 (砂糖プランテーション)
4. 衣装 (ヨーロッパとアメリカの交流)

◇アフリカ展示関係

5. 農具 (鋤・鋤・鎌など) (アフリカの生活)
6. アシャンテ王国の分銅 (大西洋の奴隷貿易)
7. 装身具 (トンボ玉・ヨーロッパの金貨) (大西洋の奴隷貿易)

◇ビデオテープ

8. アンデス高地の農耕と牧畜 (アメリカの生活)
9. アンデス高地の一日 (アメリカの生活)
10. フルベ族 村の生活 (アフリカの社会・生活・文化)
11. ボゴの王さま-北カメルーン- (アフリカの社会・生活・文化)
12. ボゴの音楽 (アフリカの社会・生活・文化)
13. ガウンデレの音楽 (アフリカの社会・生活・文化)
14. グレ島-奴隷の島から文化の島へ- (大西洋の奴隷貿易)

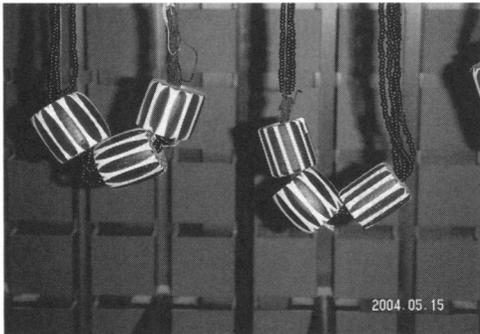
◇音楽・言語

15. インカのキープ (結縄) (アメリカの文化)

◇特別展 (「西アフリカおはなし村」)<sup>4)</sup>

16. コーランとコーラン台
17. 学習板
18. ヒョウタンの容器

<p>5. 実施時期： 本単元の実施時期に合わせて</p>	<p>6. 総時数： 6時間程度(レポート作成の時間は除く)</p>
<p>7. 単元(活動)目標：</p> <p>(1) 生徒は、アメリカ社会の特質と16世紀から18世紀にかけてのアメリカと西欧、西アフリカとの関係を理解し、大西洋貿易や砂糖プランテーションの構造や影響について、説明できる。</p> <p>(2) 生徒は、大航海時代以後、アメリカ世界が他の地域世界の発展や生活の安定に与えた影響について理解し、説明できる。</p> <p>(3) 生徒は、大航海時代以後のアメリカ社会の文化のクレオール化について、具体的事例をあげて、説明できる。</p> <p>(4) 生徒は、(1)～(3)の目標を達成するために、アメリカ展示の手引書を活用しながらアメリカ展示を中心に、展示品やビデオテープを鑑賞し、写真やメモなどで記録することができる。</p> <p>(5) 生徒は、大航海時代以後のヒトの移動とモノの交流についてのレポートを作成し、その内容を発表することができる。</p>	<p>8. キーワード</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大航海時代</li> <li>・大西洋世界</li> <li>・大西洋貿易(三角貿易)</li> <li>・作物の伝播</li> <li>・砂糖プランテーション</li> <li>・クレオール</li> </ul>
<p>9. 単元について(教材観・単元設定の理由・国際理解教育の視点など)</p> <p>(1) 現行学習指導要領地歴科世界史では、今日の歴史研究や歴史教育の研究を背景に、16世紀から18世紀にかけての学習が重視されることになった。たとえば、世界史Bでは、地域世界として、「大西洋世界」が登場した。また、世界史Aでは、「大西洋世界」という地域世界概念を用いていないが、同時期の世界の構造を示す用語として、「大西洋貿易」が使われている。「大西洋世界」とは、西ヨーロッパの新航路開拓以後、大西洋を挟んでヨーロッパ、アメリカ、西アフリカの三地域間に形成された地域世界であり、「近代世界システム」(I. ウォラーステイン)としてとらえられる。「近代世界システム」は、西アフリカから西インド諸島などの奴隷制プランテーション地域への奴隷貿易を中核としてヨーロッパ、アメリカ、西アフリカ間に形成された大西洋貿易(大西洋の三角貿易)としてあらわれた。大西洋貿易の進展は、西アフリカに深刻な人口減少をもたらし、西インド諸島やブラジルに奴隷労働に基づく砂糖プランテーションを発達させている。大西洋貿易と砂糖プランテーションの成長は西欧、とりわけイギリスに莫大な利益をもたらし、産業革命の資本蓄積を推進する一方、アメリカと西アフリカの低開発を促すことになった。</p> <p>しかし、「大西洋世界」の教材化にあたっては、大きな障害がある。大西洋の三角貿易や砂糖プランテーションの実態を知るための教材として、文字資料に頼らざるを得ないというのが実情である。その結果、授業は抽象的な概念や用語を用</p>	

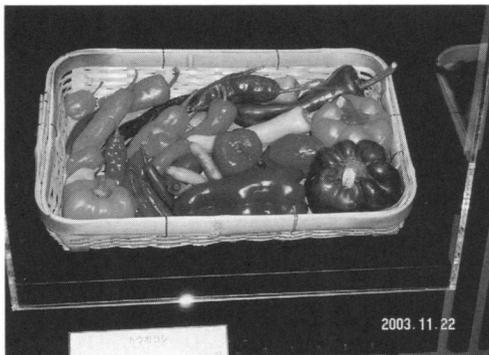


奴隷と交換されたトンボ玉

いた授業になってしまう傾向がある。幸いにも、民博の「アメリカ展示」には、砂糖プランテーションで用いた「砂糖キビ搾り機」や「砂糖玉」などが展示されている。また、「アフリカ展示」には、大西洋の三角貿易の交易品であった「トンボ玉」などが展示されている。それらの資料を活用することで、大西洋の三角貿易や砂糖プランテーションの実態を生徒に具体的

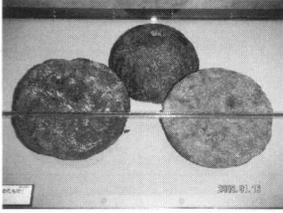
的に説明でき、イメージ豊かな授業が展開できる。

- (2) 今日のグローバル化の原点として、大航海時代に始まる「世界の一体化」があげられる。生徒が大航海時代以降の近代世界を構造的に把握できるようにするためには、どうしたらよいか。国際理解教育では、その方法として、「ヒトの移動」や「モノの交流」を切り口としてとらえる方法が提起されている。具体的には、香辛料や銀、砂糖、茶、綿製品など、当時の世界商品の生産から消費までの過程を辿ったり、ヨーロッパやアフリカから大洋を越えての移民や奴隷のような強制的移住を取り上げたりして、当時の世界の仕組みや構造を解明する方法が考えられる。また、アメリカ原産の作物が世界各地に広がったことも取り上げることができる。授業で「ヒトの移動」や「モノの交流」を扱うことによって、世界の一体

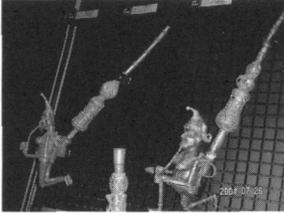


世界各地にひろまったパプリカ（アメリカ原産の作物）

性の意識を育むことが可能になる。「アメリカ展示」には、トウモロコシ、ジャガイモ、カカオ、パプリカ（トウガラシ）などの展示やその伝播を説明するパネルがあり、身近な作物を通して、「モノの交流」を具体的にイメージできる。また、カーニバルの服装やインディオの民族衣装から、アメリカとヨーロッパやアフリカの文化的交流の跡をたどることもできる。

10. 展開計画・展開記録		
次・時	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	○留意点
	<p>[民博内での活動]</p> <p>㊦（質問）「[写真を示して]アメリカ展示室で見つけたモノです。これは何ですか」</p> <p>㊧ 予想される反応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大砲の砲弾 ・岩石 ・鉱物</li> <li>・化石（恐竜の卵?）</li> </ul> <p>㊦（指示）「では、アメリカ展示室で、写真のモノを見つけて下さい」</p> <p>㊧ 砂糖の玉（砂糖キビの汁を煮て、球状に固めたもの）であることを確認し、砂糖キビ搾り機について、観察する。</p> <p>㊧ 「アメリカ展示」活用のための手引書の「近代工場は砂糖プランテーションからはじまった?」を読む。</p> <p>㊦（指示）「プランテーションで働く奴隷は、どこから供給されたか、考えて下さい」</p> <p>㊧ 予想される答え</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インディオ</li> <li>・ヨーロッパからの移民</li> <li>・アフリカからの奴隷</li> </ul> <p>㊧ 「アメリカ展示」活用のための手引書の「奴隷はどこから連れてこられたか?」を読む。</p> <p>㊧ 「アフリカ展示室」で、農具類や儀礼用の造形物、ブロンズ像を探し、写真を撮り、気づいたことをワークシートに記録する。また、アフリカの社会や文化の特徴を知るために、以下のビデオテープのいくつかを鑑賞し、その内容を、ワークシートに記録する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フルベ族 村の生活 (1096, 13分)</li> <li>・ボゴの王さま-北カメルーン (1472, 14分)</li> <li>・北カメルーンの王さま(7021, 30分)</li> <li>・ボゴの音楽 (7031, 34分)</li> <li>・ガウンデレの音楽 (7020, 32分)</li> </ul> </div>	 <p>「これは何ですか」</p> <p>◇砂糖キビ搾り機の使い方について、説明する。</p> <p>◇生徒のなかには、アフリカ系が奴隷にされた理由として、「未開の民」「従順で支配されやすい」などの偏見をもつ者もある。そのため、「アフリカ展示室」の多様な農具類や儀礼用の造形物、写実的なブロンズ像を鑑賞させることで、前述のことがアフリカ系への偏見であることに気づかせる。</p> <p>◇西欧の活動によって、大西洋を挟んで、西欧、西アフリカ、アメリカ（カリブ海域）に三角貿易が成立し、西欧の経済的繁栄と西アフリカ、アメリカ（カリブ海域）の低開発が進行したことを構造的に理解させる。そして、今日の南北問題の原型が大西洋世界に形成されたことを理解させる。</p>

次・時	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	○留意点
	<p>㊦ 「アメリカ展示」活用のための手引書の「大西洋の奴隷貿易」を読み、アフリカ系がどのようにしてアメリカに連行されてきたのかを理解する。また、奴隷貿易の実態を知るために、ゴレ島についてのビデオテープを鑑賞し、その内容を、ワークシートに記録する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・ゴレ島－奴隷の島から文化の島へ － (7145 13分)</p> </div> <p>㊦ 「アメリカ展示」活用のための手引書の「ワットの蒸気機関も奴隷貿易のお陰？」を読み、大西洋の奴隷貿易がイギリスなど西欧諸国に与えた影響について理解する。</p> <p>㊦ (指示) 「アメリカ展示の中に見られるアフリカ的要素を探してみましょう」。(アメリカ展示の中に見られるヨーロッパ的要素についても探させてみるのもよい。)</p> <p>㊦ 「ブラジルのカーニバル」の展示を探す。</p> <p>㊦ (指示) 「アメリカと他地域世界との出会いと交流は、相互に大きな影響を与えました。とくに、アメリカ原産の作物は、他地域世界の生活を豊かにし、人々を飢餓から救いました。アメリカ起源の家畜・作物やそれを使った料理や道具について、他のフロアで展示されているものを探してみましょう」</p> <p>㊦ 「アメリカ展示」活用のための手引書の「アメリカから世界にひろまった作物」とアメリカ展示室のパネル「コロンブス以前の新旧大陸における主要な作物と家畜」を読み、そこにあげられていた作物や家畜を他の展示室から探し、写真を撮り、気づいたことをワークシートに記録する。</p>	<p>○留意点</p> <div style="text-align: center;">  <p>ブラジルのカーニバル</p> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  <p>カカオの実</p> </div>

次・時	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	○留意点
	<p>[事後指導]</p> <p>レポート作成</p> <p>㊦ 民博で収集した写真や記録をもとに、以下のテーマでレポートを作成し、提出する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>レポートのテーマ<sup>5)</sup></p> <p>川北稔はその著書『砂糖の世界史』（岩波ジュニア新書）の中で、「モノ（商品）」を通じて歴史を見ることで二つの大事なことがわかると述べています。すなわち、第一に「各地の人々の生活の具体的姿」や「下層の民衆の姿」が見えてくることであり、第二に、「世界経済の仕組み」や「世界各地の相互のつながり」がわかるということです。このことを念頭において、パネル「コロンブス以前の新旧大陸における主要な作物と家畜」のなかから一つを取り上げ、以下の2つの課題についてレポートを作成してください。</p> <p>課題1 みなさんが選んだ作物や家畜について、その特徴や歴史について調べてみましょう。</p> <p>課題2 みなさんが選んだ作物や家畜について、下の①・②のうちのどちらかを選んで考察してみましょう。</p> <p>①人々の生活に与えた影響（恩恵）</p> <p>②世界経済の仕組みや世界各地のつながり</p> </div> <p>●レポートの発表会</p> <p>㊦ 提出レポートの中から数点を選び、発表させる。</p> <p>㊦ 発表内容や感想について、意見交換を行う。</p>	<p>○留意点</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>精巧に装飾された真鍮製のパイプ（アフリカ展示）</p>

#### 11. 評価計画：

- (1) アメリカ社会の特質と16世紀から18世紀にかけてのアメリカと西欧、西アフリカの関係を理解し、大西洋貿易や砂糖プランテーションの構造や影響について説明できたか（観察、ワークシート）。
- (2) 大航海時代以後、アメリカ世界が他の地域世界の発展や生活の安定に与えた影響について理解し、説明できたか（観察、ワークシート）。
- (3) 大航海時代以後のアメリカ社会の文化のクレオール化について、具体例をあげて、説明できたか（観察、ワークシート）。
- (4) 「アメリカ展示」活用のための手引書を活用しながらアメリカ展示を中心に展示品やビデオテープを鑑賞し、写真やメモなどで記録することができたか（観察、ワークシート、レポート）。
- (5) 大航海時代以後のモノの交流についてのレポートを作成し、レポートの内容を発表することができたか（観察、レポート、発表）。

#### 12. 授業づくりのための参考資料

- ・池本幸三ほか2名『近代世界と奴隷制——大西洋システムの中で』（人文書院、1995）
- ・川北稔『砂糖の世界史（岩波ジュニア新書276）』（岩波書店、1996）
- ・A・ヘンリー『ルーツ』（社会思想社、1978）
- ・本田創造『アメリカ黒人の歴史 新版（岩波新書165）』（岩波書店、1991）
- ・ダニエル・P・マニックス『黒い積荷』（平凡社、1976）
- ・シドニー・W・ミンツ『甘さと権力 砂糖が語る近現代史』（平凡社、1988）
- ・ジャン・メイエル著／猿谷要監修『奴隷と奴隷商人』（創元社、1992）
- ・八杉佳穂『チョコレート文化史』（世界思想社、2004）
- ・山本紀夫『ジャガイモとインカ帝国』（東京大学出版会、2004）

## 2 「アメリカ展示」活用のための手引書

国立民族学博物館を活用した異文化理解教育のプログラム開発

**「大航海時代」以後のヒトの移動やモノの  
交流は、人々に何をもたらしたか?!**

**～「アメリカ展示」を活用して～**

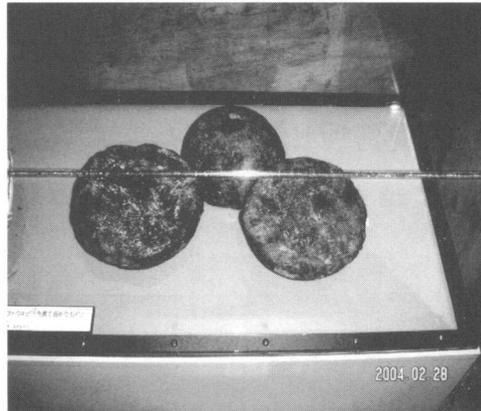


アメリカ合衆国・ニューオリンズの街角で（2003年8月撮影）

コロンブスの航海は、「地理上の発見」「新大陸の発見」と呼ばれてきました。しかし、「地理上の発見」や「新大陸の発見」という用語には、発見する側としてのヨーロッパを中心とすえ、その進出先となる非ヨーロッパ世界、とりわけアメリカ世界を受動的にとらえる傾向があります。この時代は、地球上のさまざまな人々が出会い、文化が混淆した時代でした。そのため、今日では、「地理上の発見」「新大陸の発見」などの呼称は使われなくなり、「大航海時代」と呼ばれることになりました。

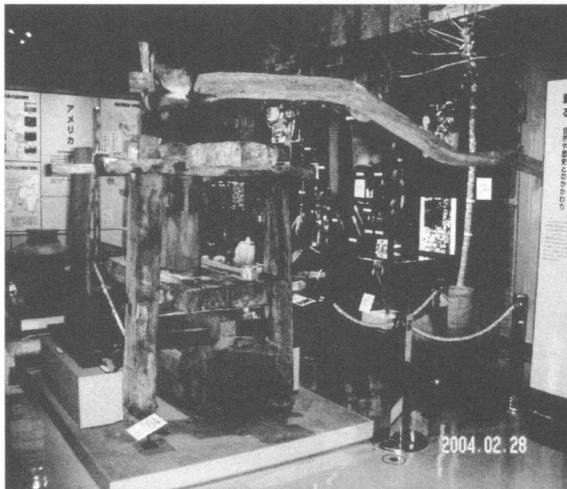
では、「アメリカ展示」を見学しながら、大航海時代以後のヒトの移動やモノの交流や文化の混淆について、学ぶことにしましょう。

これは、「アメリカ展示室」のフロアーで見つけたものです。大きさは、バレーボールを一回り小さくしたくらいです。これは何だと思いませんか？



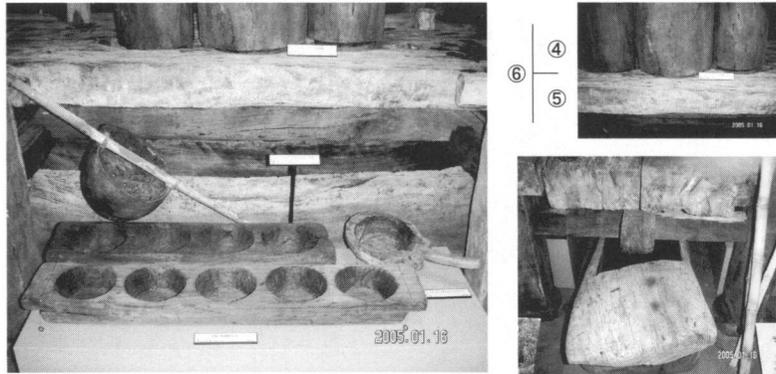
①これは何ですか？（民博・アメリカ展示）

答えは、砂糖キビ汁を煮て固めたものです。19世紀のカリブ海域の島々は、イギリス、フランス、スペインの植民地で、見渡す限りの砂糖キビ畑で覆われていました。カリブ海の島々がこのような景観に変わったのは17世紀以降のことです。「旧世界」からアメリカへの砂糖キビの移植はコロンブスの航海から始まりました。



②  
③

砂糖キビ・プランテーション（②、アメリカ合衆国・ミシシッピ州、2003年8月、筆者が撮影）と砂糖キビ搾り機（③：民博・アメリカ展示）



砂糖キビを圧搾し (④)、出てきたキビ汁を貯める容器 (⑤)。煮詰めたキビ汁をすくう柄杓とそれを固める木型 (⑥)。この作業によって、写真①のようなボール状のかたまりが作られる (民博・アメリカ展示)。

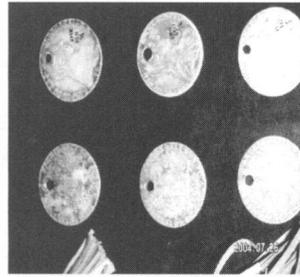
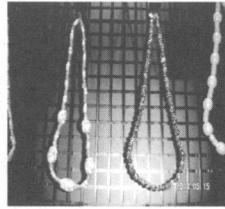
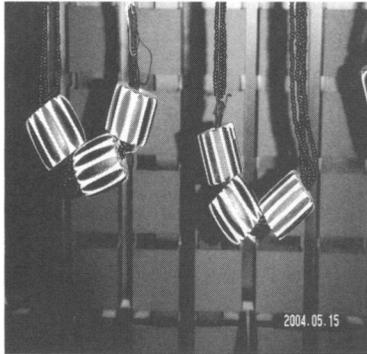
#### ◇近代の工場は砂糖プランテーションから始まった？

砂糖プランテーションは農園と工場がドッキングした施設でした。農園での砂糖キビの作付け・施肥・除草・収穫は過酷な労働です。とりわけ、収穫時には短期間に伐採を終えないと砂糖の量や質に重大な影響を与えたため、奴隷頭の監視のもとで早朝から夕方まで激しい労働が強制されました。成人から老人・子供まですべての奴隷が能力別にチームを編成して、組織的に作業を行いました。工場での製糖作業は、農園での仕事以上に過酷で危険に満ちていました。奴隷は騒音と高温多湿の中で昼も夜も巨大なローラーを用いての搾汁や大釜から柄杓を使っての灰汁を取り除く煮詰め作業を行いました。展示されている「砂糖キビ搾り機 (②)」は、砂糖精製のための機械です。蒸気機関車も砂糖をプランテーションから港に運ぶためにいち早く導入されました。「世界商品」である砂糖を迅速に市場に供給することがプランターの利益を左右したからです。近代の工場システムの原型が、植民地での砂糖プランテーションで成立したことは驚くべきことです。イギリスで産業革命が本格化し、工場制度が定着するのは砂糖プランテーションの成立より1世紀近く後でした。砂糖プランテーションがイギリスの工場制度に影響を与えたとの研究もあります。砂糖プランテーションの労働はあまりにも過酷であったために、購入した奴隷は1シーズンの内に3分の1が死亡しました。そのため、奴隷が外部から常に補充される必要がありました。

#### ◇奴隷はどこから連れてこられたか？



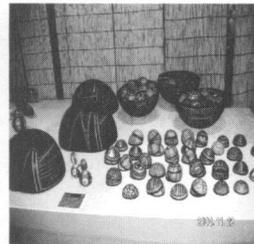
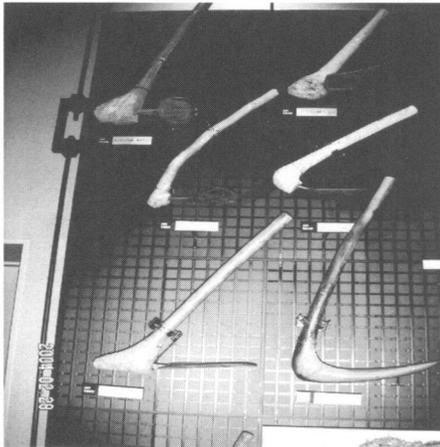
⑦ヨーロッパ人によるアメリカ大陸の「発見」 (民博・アメリカ展示)



⑧ ⑨ ⑩

トンボ玉 (⑧) とトンボ玉を使ったネックレス (⑨) マリア・テレジア金貨を加工したアクセサリー (⑩) (民博・アフリカ展示)

奴隷貿易はヨーロッパ・西アフリカ・アメリカ間の三角貿易の形態をとりました。ヨーロッパの港を出航した奴隷貿易船は、鉄砲や弾薬、ガラス玉 (トンボ玉; アフリカ展示)、安価な綿布やアフリカで通貨代わりとして使われた鉄棒などを積み込みました。これらの商品は西アフリカに運ばれ、その商品と交換されました。西アフリカの海岸地帯はヨーロッパ人によって象牙海岸、黄金海岸、奴隷海岸など、かれらが求めた商品名が付けられました。とりわけ、アフリカ系奴隷が最も重要な「商品」でした。当時、この地域にはダホメ王国やベニン王国、アシャンテ王国 (砂金計測の分銅、秤: アフリカ展示) などの王国が栄え、内陸部の弱小部族を攻撃して捕らえてヨーロッパの商品と交換することを国家の経済基盤としていました。奴隷とされたのは、老人や子供よりも若者でした。その結果、若者人口の減少はその後のアフリカ社会に深刻な傷跡を残し、発展を阻害する要因となりました。



⑪ ⑫ ⑬ 様々な形をした鍬 (⑪) と写実的なブロンズ像 (⑫) (民博・アフリカ展示)。飾りヒョウタン (⑬) (民博・特別展「西アフリカおはなし村」)。

なぜ、アフリカ系がカリブ海やブラジルのプランテーション奴隷にされたのでしょうか。アフリカ系は未開の民であり、未統合の部族集団であったためでしょうか。従順な性格で支配されやすかったからでしょうか。そのことが正しいのかを確認するために、アフリカ展示室を見学してみてください。「アフリカ展示」の多様な農具類や、写実的なブロンズ像、儀礼用の様々な造形物の存在から、アフリカ社会が他の世界と比べても遜色のない発達した社会であり、農耕に対する高度な知識と技術を有し、組織的な労働に順応できる存在であったことが分かります。アフリカ系を未開の民・野蛮人とする見方は、根拠のない偏見です。アフリカ社会は野蛮でも未開でもありませんでした。同時代の他の世界と比較しても決して劣ることのない成熟した社会でした。このことが砂糖キビのような労働集約型の栽培作物の労働を可能にしました。



コーランとコーラン台 (14), コーランの学習板と学習風景 (15, 16) (民博・特別展「西アフリカおはなし村」)

当時の西アフリカでは、イスラームの信仰が浸透していました。サハラ以北のイスラーム社会との接触から奴隷制が導入され、奴隷が存在し、売買されていました。このことが、西アフリカでのヨーロッパ人による奴隷獲得を容易にしたといわれています。ここで、注意しなければならないことがあります。イスラームの奴隷制は、待遇の面でアメリカの奴隷制とは大きな違いがありました。西アフリカでは、アメリカのプランテーションでの労働のように過酷な仕打ちを受けることなく、家族のように扱われていました。なかには、王国の高官や将軍にも取り立てられる者もいたとのことでした。

西アフリカの社会や芸能、文化について理解する上で、ビデオテークの番組が役に立ちます。西アフリカの社会や文化の特徴を知るために、いくつか鑑賞して下さい。

ビデオテーク

- ◇フルベ族 村の生活 (1096 13分)
- ◇ボゴの王さま -北カメルーン- (1472 14分)
- ◇北カメルーンの王さま (7021 30分)
- ◇ガウンデレの音楽 (7020 32分)
- ◇ボゴの音楽 (7031 34分)

◇大西洋の奴隷貿易

ヨーロッパの商人は西アフリカで奴隷を購入すると、奴隷の額、胸、肩、背中などに焼き印を押して貿易船に積み込み、カリブ海域やブラジルに搬送しました。この航海は「中間航路」と呼ばれ、普通 30 日～40 日、長いときには9ヶ月を要しました。船に奴隷をぎりぎりまで積み込んだため、奴隷一人あたりの空間は高さ80、奥行き180、幅40センチほどに過ぎませんでした。奴隷たちは素裸で両手を鎖で固定された上、足も二人ずつ繋がれていました。そのため、伝染病や脱水症、自殺などによって輸送中に多くの死者を出しました。船中での伝染病の流行を恐れた船長は、病気になる奴隷を見つけると生きたまま海に捨てることを部下に命じました。そのため、餌を求めた鯨が貿易船の航跡を追っていく姿をよく見かけたといえます。イギリスのリヴァプール港から出航したトマス号の航海 (1767 年) では、奴隷 630 人の内 100 名が輸送中に死亡しました。歴史学者の推定によれば、16 世紀から奴隷貿易が廃止される 19 世紀初頭までに、1200 万人から 2000 万人という奴隷が西アフリカからアメリカへ運ばれたとのことでした。貿易船は奴隷を売却後、そこで生産された砂糖やタバコ、綿花などを積み込み、ヨーロッパの港に帰還しました。

この三角貿易によって、ヨーロッパの商人は最低でも元手の3倍の利益を得たといえます。とりわけ、奴隷貿易は利益率が高いものでした。ヨーロッパ・西アフリカ・アメリカの3地域は三角貿易を通じて密接な関係を形成し、経済的一体性を強めることになりました（大西洋世界の形成）。

今日、奴隷貿易の実態を知る上で貴重な資料を提供してくれるのが、セネガルのダカール沖合にあるゴレ島です。ゴレ島には、アフリカ大陸から連行してきた奴隷を一時収容し、カリブ海やブラジルに積み出すための施設がつくられ、その施設が今も保存されています。そのため、ゴレ島は1978年、ユネスコ世界遺産に登録されました。ゴレ島については、ビデオテークの番組があるので、是非鑑賞して下さい。

ビデオテーク

◇ゴレ島－奴隷の島から文化の島へ－（7145 13分）

### ◇ワットの蒸気機関も奴隷貿易のお陰？

三角貿易での最大の受益者はイギリスのリヴァプール商人でした。奴隷貿易は東インド会社のような独占貿易の形態をとらなかったため、財力があれば誰でも貿易に参加できました。その結果、17世紀以前はさびれた港町に過ぎなかったリヴァプールが18世紀末までに世界最大の奴隷貿易港に成長しました。当時のイギリスで三角貿易や植民地貿易に関わっていない商業・工業都市などはほとんどなかったといわれます。また、植民地の砂糖プランターの多くはイギリス本土に移り住み、上流階級を形成しました。ジョージ3世（在位1760～1820年）が砂糖プランターの立派な馬車を見て、首相のビットに「砂糖の関税はどうなっているのか！」と問いただしたという話が残っています。砂糖プランターの中には国王を嫉妬させるほどの贅沢な暮らしをしているものも現れました。かれらの蓄えた資本が産業革命を準備することになりました。ジェームズ・ワットの蒸気機関の研究はリヴァプール商人のつくった銀行から研究資金の提供を受けて行われたといえます。産業革命の代表的工業都市に成長するマンチェスターがリヴァプールに隣接していたことは、決して偶然ではありませんでした。

### ◇アメリカにおけるアフリカ系の人々の生活と文化

19世紀にはいると、ヨーロッパでの人権思想の高まりの中で、奴隷貿易は1815年のウィーン会議で禁止されました。また、イギリスを初めとするヨーロッパ各国は奴隷制度を廃止し、19世紀末には、アメリカでもその姿を完全に消すことになりました。

この間、アフリカから連行された人々は、プランテーションの過酷な労働の中でアフリカの生活や文化を保持し変容させながら、新しい生活や文化をつくり上げていきました。

### ●アメリカ展示の中にみられるアフリカの要素を探してみましょう。



ブラジルのカーニバル  
(17) (民博・アメリカ展示)

19世紀にキリスト教の四旬節の祭として生まれ、そこではアフリカ系の歌と踊りが行われた。

### ◇アメリカから世界にひろまった作物

大航海時代には、砂糖キビのように、多くの家畜や作物がユーラシアやアフリカからアメリカへ伝えられました。また逆に、アメリカから世界各地へひろまり、人々を飢餓から救い、食生活を豊かにした作物もあります。

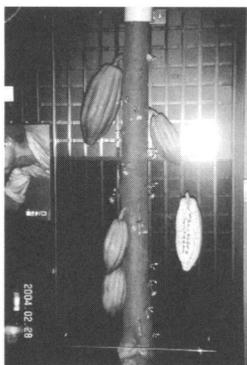
**コロンブス以前の新旧両大陸における主要な作物と家畜**

	旧大陸	新大陸
穀類	コムギ、オオムギ、ライムギ、イネ、モロコシ、キビ、ソバ	トウモロコシ、センニンコク、キヌア
イモ類	タロイモ、ヤマイモ	ジャガイモ、サツマイモ、マニオク
果物類	リンゴ、イチジク、ブドウ、オリーブ、ナシ、柑橘類	パイナップル、パパイヤ、アボガド
マメ類	ヒヨコマメ、エンドウ、ソラマメ、ダイズ、アズキ	インゲンマメ、ラッカセイ、ライマメ
果菜類	キュウリ、スイカ、ナス	カボチャ、トマト
野菜類	ニンジン、タマネギ、キャベツ	
香料・香辛料	コショウ、チョウジ	トウガラシ
嗜好料	コエンドロ、ショウガ、茶、コーヒー	タバコ、カカオ
その他の作物	サトウキビ、サトウダイコン、ワタ、バナナ、ヒョウタン	ゴム、ワタ、ヒョウタン
家畜	牛、馬、羊、山羊、豚、ロバ、犬	リヤマ、アルバカ、七面鳥、クイ(テンジクネズミ)、犬

薬用植物および繊維用植物は除く。なお、作物のワタおよびヒョウタン、家畜の犬はコロンブス以前から新旧両大陸で栽培、飼育されていた。

2004.02.28

⑩ コロンブス以前の「新旧」両大陸における主要な作物と家畜 (民博・アメリカ展示)



アメリカ起源で世界にひろまった作物。カカオの実 (19)、ジャガイモ (20)、トウモロコシ (21) (民博・アメリカ展示)

● アメリカ起源の家畜・作物やそれを使った料理や道具について、他のフロアで展示されてあるか探してみましょう。

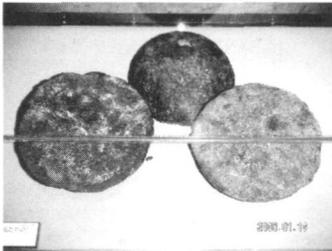
参考文献

- シドニー・ミンツ『甘さと権力』平凡社 1988年
- 増田義郎『略奪の海 カリブ』岩波新書 1989年
- 川北稔『砂糖の世界史』岩波ジュニア新書 1996年
- 加藤祐三・川北稔『アジアと欧米世界』中央公論社 1998年

### 3 「アメリカ展示」活用のためのワークシート

1 アメリカ展示室で見つけたものです。これは何ですか。なぜ君はそう思ったのですか、その理由をあげてください。

下の写真は（ ）である。その理由は、



であるから。

君の予想は当たっていましたか。アメリカ展示室で確認し、「解説」を読みメモして下さい。

2 写真の機械について観察し、気づいたことをメモして下さい。



気づいたこと

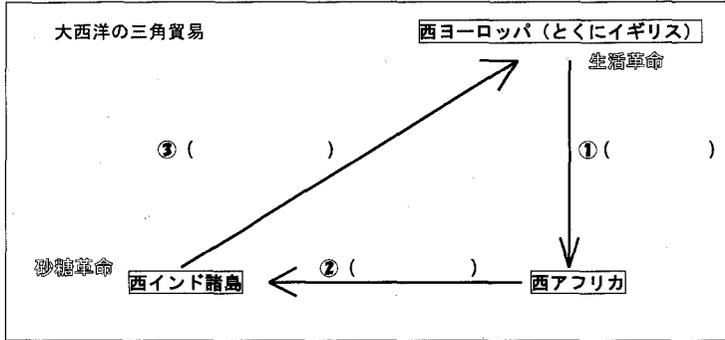
3 アフリカ展示室を見学し、農機具や儀礼用の造形物の中から、君が興味や関心をもった展示品を選び、写真に撮り、気づいたことをメモして下さい。

<p>○写真貼付欄○</p>	<p>気づいたこと</p>
----------------	---------------

4 君が見たビデオテープのタイトルをあげ、その内容を記録して下さい。

<p>ビデオテープのタイトル</p>
<p>ビデオテープの内容</p>

5 17・18世紀にかけて大西洋を舞台に大規模に展開した「三角貿易」について、代表的な貿易品を( )に入れて下さい。



6 「ワットの蒸気機関の開発(改良)は、奴隷貿易のおかげ」という話があります。この話はどのような歴史的事実を示していたと思いますか。ビデオテープ「ゴレ島—奴隷の島から文化の島へ—」を見て、気づいたことをメモして下さい。

7 アメリカ展示に見られるアフリカの要素を探し、写真に撮って下さい。また、気づいたことをメモして下さい。

○写真貼付欄○

気づいたこと

8 アメリカ起源の家畜や、作物を使った料理や嗜好品<sup>しこうひん</sup>について、他の展示フロアで探し、写真に撮って下さい。また、気づいたことをメモして下さい。

<p>○写真貼付欄○</p>	<p>気づいたこと</p>
----------------	---------------

◇事後用ワークシート◇

9 レポートのテーマ

川北稔はその著書『砂糖の世界史』(岩波ジュニア新書)の中で、「モノ(商品)」を通じて歴史を見ることで二つの大事なことがわかると言っています。すなわち、第一に「各地の人々の生活の具体的姿」や「下層の民衆の姿」が見えてくることであり、第二に「世界経済の仕組み」や「世界各地の相互のつながり」がわかると言うことです。このことを念頭において、パネル「コロンブス以前の新旧大陸における主要な作物と家畜」中の作物か家畜を取り上げ、以下の課題についてレポートを作成して下さい。

課題1

選んだ作物や家畜について、その特徴や歴史を調べてみよう。

課題2

選んだ作物や家畜について、下の①・②のうちのどちらかを選んで考察してみよう。

- ①人々の生活に与えた影響や恩恵
- ②世界経済の仕組みや世界各地のつながり

## おわりに

本研究では、民博の展示・資料を地歴科世界史のカリキュラムの中に位置付けて単元を開発した。筆者の勤務校は東京都（筑波大学附属高等学校，東京都文京区大塚1-9-1）であったため，残念ながら，クラスの生徒を連れて民博を訪問し，開発した単元を実践することができなかった。そのため，本稿の内容は実践という飾にかけておらず，まだ構想に過ぎない。もし修学旅行や授業の一環として訪問可能な高校があれば，是非この単元を実践して頂ければと思う。

民博では，館内での写真撮影が許可されている<sup>6)</sup>ので，所蔵の展示品を記録し教材として授業で活用することが可能である。また，ビデオテークの中には，授業での使用を条件に番組のビデオテープを貸し出しているものも多い。生徒と一緒に民博を訪問できない場合には，展示品の写真や番組（ビデオテープ）の貸し出しサービスを活用して，授業を行う方法も考えられる。

この小論が学校教育で博物館をどう活用したらよいかという問題を考える上での一助になることを祈念して，結語とする。

## 註

- 1) 地歴科の他科目の場合，博物館や郷土資料館等の地域にある施設を活用した授業を「行っている方だ」，「どちらかといえば行っている方だ」と回答した教員は，「日本史A」4.8%，「日本史B」5.3%，「地理A」3.1%，「地理B」3.2%であった。それに対して，「行っていない方だ」との回答は「日本史A」79.8%，「日本史B」79.2%，「地理A」85.2%，「地理B」84.0%に達した。
- 2) 博物館を活用した教員による歴史学習としては，加藤公明『子どもの探究心を育てる博物館学習』（歴博ブックレット13，歴史民俗博物館振興会，2000年），小出宗治「屏風絵の中の近世日本と世界」（同20，2002年），三橋広夫「歴史の授業を工夫する」（同25，2003年）などがある。また，『教室の窓』Vol.3（文献欄を参照）には，教員による博物館を活用した社会科授業が紹介されている。
- 3) 筆者は，民博「アメリカ展示」を活用した単元の他に，「オセアニア展示」を活用した単元も開発した。「オセアニア展示」については，拙稿「博物館を利用した異文化理解教育—国立民族学博物館『オセアニア展示』を活用して—」（『研究紀要』第46巻，筑波大学附属高等学校，2005年）を参照して欲しい。
- 4) 特別展「西アフリカおはなし村」は，2003年7月24日から11月25日までの期間，民博・特別展示館で開催された。
- 5) 小島道裕「歴史展示をつくるとは」（国立歴史民俗博物館編『歴史展示とは何か 歴博フォーラム歴史系博物館の現在・未来』アム・プロモーション，2003年，129頁）。小島は，「自由な学び」あるいは「創造性」という観点からの博物館における教育の「究極のプログラム」として，「展示の中から任意の資料を選び出して，それに解説をつけていくという作業」を上げ

ている。筆者は、小島のこの提言を参考にして、「課題1」「課題2」のようなレポートテーマを選定した。

- 6) 民博では、個人的な使用を目的とした館内の撮影は無規制となっている（ただし、特別展・企画展は場合によって制限される）（『国立民族学博物館』国立民族学博物館，2002年，34頁）。

## 文 献

小島道裕

2000 『イギリスの博物館で 博物館教育の現場から』歴博ブックレット16，歴史民俗博物館振興会

国立教育政策研究所教育課程センター

2005 『平成15年度教育課程実施状況調査（高等学校）ペーパーテスト調査集計結果及び質問紙調査集計結果』

国立民族学博物館民族学研究開発センター

2001 『学校における博物館の利用方法をめぐって』国立民族学博物館

森茂岳雄

2005 「社会科における博物館活用の可能性」『教室の窓』3，東京書籍  
文部省

1999 『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』実教出版

付記：本稿に掲載した写真は、すべて筆者が撮影したものである。

# 資料 現行学習指導要領地理歴史科世界史と民博展示・ビデオテークとの対応表

## (1) 現行学習指導要領地理歴史科における博物館活用や多文化理解にかかわる内容〔抜粋〕

### 【世界史A】

#### 3 内容の取扱い

(1) イ 諸地域世界、交流圏、国際関係の展開などを取り扱う際、比較文明的視点も考慮するとともに、各時代における世界の中に日本を位置付けて考察させること。

ウ 風土、民族の扱い、人類の課題の考察、歴史地図の活用などについては、地理的条件との関連に留意すること。

(2) 内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。

ア 内容の(1)のイからエまでについては、諸地域世界の特質を構造的視野から把握させるものとし、個々の地域を通史的に扱うことのないようにすること。また、東アジア世界の取扱いにおいては、日本を明確に位置付けること。

### 【世界史B】

#### 3 内容の取扱い

(1) ウ 風土、民族の扱い、現代の課題の考察、歴史地図の活用などについては、地理的条件との関連に留意すること。

(2) イ (ア) 各時代の人々の生活や意識を具体的に理解できるようにし、政治家のみの学習にならないようにすること。

(イ) 比較文明的視点から世界の歴史の中の日本の位置付けにも着目させること。

### 【日本史A】

#### 3 内容の取扱い

(2) (ア) 日本史学習に対する関心を高めるとともに、歴史の学習の基礎的な認識を深めることをねらいとして、作業的、体験的な学習を重視すること。

### 【日本史B】

#### 2 内容 (1) 歴史の考察

歴史を考察する基本的な方法を理解させるとともに、主題を設定して追究する学習、地域社会にかかわる学習を通して、歴史への関心を高め、歴史的な見方や考え方を身に付けさせる。

#### ア 歴史と資料

歴史における資料の特性とその活用及び文化財保護の意義について理解させる。

#### (ア) 資料をよむ

様々な歴史的資料の特性に着目して、資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解させる。

#### (イ) 資料にふれる

博物館などの施設や地域の文化遺産についての関心を高め、文化財保護の重要性について理解させる。

#### 3 内容の取扱い

(2) (ア) 日本史学習に対する関心を高めるとともに、歴史の学習の基礎的な認識を深めることをねらいとして、作業的、体験的な学習を重視すること。

### 【第3章 各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い】

2 各科目の指導に当たっては、情報を主体的に活用する学習活動を重視するとともに、作業的、体験的な学習を取り入れるよう配慮するものとする。そのため、地図や年表を読みかつ作成すること、各種の統計、年鑑、日書、画像、新聞、読み物その他の資料に親しみ、活用すること、観察、見学及び調査・研究したことを発表したり報告書にまとめることなど様々な学習活動を取り入れるとともに、コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用して学習の効果を高めるよう工夫するものとする。

## (2) 現行学習指導要領地理歴史科世界史と民博展示・ビデオテークの対応

新学習指導要領「2. 内容」の項目（大項目・中項目・小項目）		国立民族博物館の展示	ビデオテーク
世界史A	世界史B		
	(1) 世界史への扉 身近なものや日常生活にかかわる主題、我が国の歴史にかかわる主題など、適切な主題を設定し追究する学習を通して、歴史に対する関心と世界史学習への意欲を高める。		
	ア 世界史における時間と空間 時計、暦、世界地図、都市図などから適切な事例を取り上げて、その変遷や意義を追究させ、人々の時間意識や空間意識が時代や地域により異なることに気付かせる。	◇オセアニア 海図（地図） ◇アメリカ アステカの暦石（暦） ◇南アジア 天津儀	
	イ 日常生活に見る世界史 衣食住、家族、余暇、スポーツなどから適切な事例を取り上げて、その変遷を追究させ、日常生活からも世界史がとらえられることに気付かせる。	◇オセアニア ゴイづくり用石ぎねと皿、履布、マオリの倉庫（衣食住） ◇アメリカ 防寒着一式、メソアメリカ・アンデス男女の衣装、マユク（おろし板・しぼり・パン焼き皿）（衣食住） ◇ヨーロッパ 糸車、梳毛具、機織り機、糸取り棒、樟皮リュック、ワイン蒸留釜、ブドウ絞り機、チーズ型、バター製造用攪拌器（衣食住） ◇アフリカ 織り機と綿織物、ヒョウタン製品、牛乳入れ（衣食住） ◇西アジア 花嫁衣装（家族） フェルト製外とう、水袋、男性用衣服と頭覆	◇オセアニア 履布と女性、パンノキの実、ヤシ酒とココヤシ、タロイモ料理、ウミガメ料理、現代アボリジニの食料獲得の技術、カンガルーの石蒸し料理（衣食住） アボリジナルの家族史調査、あるアボリジニ女性の生活史（家族） ◇アメリカ アンデス高地の一日（衣食住） ◇ヨーロッパ エストニアの民家、サーミ人のテント、スコッチ・ウイスキー、ドイツのビール、ドイツのソーセージづくり、アルゴイヤール・アルプスのチーズづくり、フランス料理の伝統、食卓の黒いダイヤートリューフ、フランスのぶどう酒、ブルゴーニュのブドウ搾り、バスクのチーズづくり、羊飼いとチーズづくり、パン

	<p>い、女性用衣服とヴェール（衣食住）          コーヒー挽きとコーヒーポット、水タバコ（余暇）  <b>◇南アジア</b>          パターつくり攪拌器と攪拌棒、ココナッツ削り（衣食住）  <b>◇東南アジア</b>          穀倉、家船、腰布、スンパ女性の衣装（衣食住）          キンマ入れ容器（余暇）  <b>◇朝鮮半島の文化</b>          木製キムチの甕（衣食住）  <b>◇中国地域の文化</b>          江南の農家・四合院（家族・衣食住）          【西南中国少数民族の文化】          酒入れ、すし桶、西南中国少数民族衣装（衣食住）          【草原・高原の文化】          銀製食器、バター茶つくり用おけ（衣食住）  <b>◇中央・北アジア</b>          カザフの天幕・炊事場、女性の部屋、トルクメン・ウズベクの民族衣装、キルギスの花嫁衣装、帽子（衣食住・家族）          【モンゴル遊牧民の文化】          モンゴルの天幕、モンゴルの衣装、馬乳酒用草袋と攪拌棒、酒の蒸留装置（衣食住・家族）          すもう用衣装、馬頭琴（余暇・スポーツ）          【狩猟と漁労の文化】          上着とスカート、白樺皮製容器、トナカイ用ソリ・くら（衣食住）  <b>◇アイヌの文化</b>          鳥皮衣、アッシ衣、イラクサ衣、魚皮製衣服、切伏せ文衣、アイヌの家、木皿・木盆・あみ容器（衣食住）          喫煙具（余暇）  <b>◇日本の文化</b>          秋山樫の民家、いろり、膳（衣食住、家族）</p>	<p>の発達史、乳製品の歴史（衣食住）          リトアニアの歌と踊り、フランスの鹿狩り、騎馬闘牛（余暇・スポーツ）          ソビエト・グルジア地方の結婚式（家族）  <b>◇アフリカ</b>          遊牧民トゥアレグ族キャンプの一日、フルベ族・村の生活、フルベ族の家畜と水、ニジェール川・漁村の生活、ボロロ族の生活、コトコ族の生活、熱帯降雨林の狩り、マサイ族に牧畜生活、カラハリ砂漠の家作り、ダバゴの酒つくり、ケープタウンの「スラム」の一日、掘っ立て小屋に暮らす（衣食住）          北カルメーンの花嫁（家族）          アンダルシア音楽、セネガル相撲、カラハリ砂漠の「靴指ピアノ」（余暇・スポーツ）  <b>◇西アジア</b>          トルコのチーズづくり、土の家の知恵ーイラン、ヤシのサンダル、遊牧民の生活、パンの発達史、乳製品の歴史（衣食住）  <b>◇南アジア</b>          インドのサリー（衣食住）  <b>◇東南アジア</b>          アカ族の生活、アカ族の米づくり、北部タイ農村の住居と食生活、タイの塩辛と魚醤油、カンボジアの塩辛づくり、カンボジアのウン作り、クチン川河口の漁労と生活、イバン族の生活（衣食住）          ラオカン・カオレーカンボジアの仮面劇、スバエク・トイーカンボジアの小型影絵芝居一、スエバク・トムーカンボジアの大型影絵芝居一、西ジャワの竹の楽器、西ジャワの太鼓、ワヤンとマーハーバーラタの物語り、ワヤン・クリットの物語り、ジャワの影絵芝居ーワヤン・クリッター、バロンダンス、バリ島のガムラン、ジョグット・ブンブン（余暇・スポーツ）          ヤオ族の結婚式、ジャコブルウォの結婚、バリ島の結婚式（家族）  <b>◇中央・北アジア</b>          フェルトの敷物、ウイグル族の生活、キルギス族の生活、モンゴル遊牧民のすまい、トルグート・モンゴル族の生活（衣食住）          馬乳酒の祭り、サハの馬乳酒のまつり（余暇・スポーツ）          タジク族の結婚式（家族）  <b>◇朝鮮半島</b>          韓国の伝統料理、韓国の伝統的衣装（衣食住）          韓国の民衆仮面劇、韓国の旅芸人ナムサン（余暇・スポーツ）          韓国の結婚式（家族）  <b>◇中国</b>          地下式住居 窖洞<sup>ワジ</sup>の生活、トルグート・モンゴル族の生活、ウイグル族の生活、トン族の暮らし、トン族の住まい（衣食住）  <b>◇アイヌ</b>          沙流アイヌの家造り、アットゥシーアイヌの衣装一、アイヌのシリカップ料理、日高アイヌのウバユリ澱粉づくり（衣食住）          アイヌの楽器・トンコリ（余暇・スポーツ）          沙流アイヌの結婚式（家族）  <b>◇日本</b>          省略</p>
	<p>ウ 世界史と日本史とのつながり          日本と世界の接点・交流にかかわる人、物、技術、文化などから適切な事例を取り上げて、接点・交流の具体的な機軸を追究させ、日本列島の歴史と世界史との密接なつながりに気付かせる。</p>	<p>◇音楽・言語          琵琶とリュート、ウード          世界のことばの語順</p>
<p>(1) 諸地域世界と交流圏          風土、民族、宗教などに着目させながら、ユーラシアを中心に形成された諸地域世界の特質を把握させる。また、諸地域相互の交流に触れ、世界の一体化につながる交流圏の成立に気付かせる。</p>	<p>(2) 諸地域世界の形成          人類は各地の自然環境に適応しながら農耕や牧畜を基礎とする諸文明を築き上げ、やがてそれらを基により大きな地域世界を形成したことを把握させる。</p> <p>(3) 諸地域世界の交流と再編          ユーラシアの内陸及び海境のネットワークを背景に、諸地域世界の交流が一段と活発になり、新たな地域世界の形成や再編を促したことを把握させる。</p>	

<p><b>ア 東アジア世界</b> 東アジアの風土と諸民族、漢字文化、儒教、中国を中心とする国際体制に触れ、日本を含む東アジア世界の特質を把握させる。</p>	<p>(2) <b>ウ 東アジア・内陸アジア世界の形成</b> 東アジア・内陸アジアの風土、中華文明の起源と秦・漢帝国、遊牧国家の動向、唐帝国と東アジア諸民族の活動に触れ、日本を含む東アジア世界と内陸アジア世界の形成過程を把握させる。</p> <p>(3) <b>ウ 内陸アジアの動向と諸地域世界</b> 契丹・女真と宋の抗争、モンゴル帝国の興亡と諸地域世界や日本の変動に触れ、内陸アジア諸民族がユーラシア諸地域の交流と再編に果たした役割を把握させる。</p>	<p>◇中国地域の文化 〔漢族の文化〕 竜骨車 (東アジアの風土：水稲耕作) 四合院 (中国社会の宗族) 龍舞 (中国皇帝と冊封体制) 〔西南中国少数民族の文化〕 西南中国少数民族衣裳 (東アジアの諸民族) ◇朝鮮半島の文化 〔歴史と文化〕 祭祀床 (チュササン) (儒教) 符籙 (護符) (漢字文化) 〔衣食住生活と芸能〕 両班の屏風 (平生園) (科挙・儒教)</p>	<p>◇中国 黄土高原の春鶯 (東アジアの風土) 地下式住居 窖洞の生活 (同上) トルグート・モンゴル族の生活 (諸民族) ウイグル族の生活 (諸民族) 崑崙の玉 (中国文化の広がり) ◇朝鮮半島 韓国の古稀祝い (儒教) 韓国の結婚式 (儒教) 韓国の餅餅 (儒教) 韓国の国家器 (東アジア文化) 宗廟祭 (宗族・東アジア文化) 宗廟祭の音楽と楽器 (宗族・東アジア文化) ◇日本 日本の文字 (漢字文化) 雅楽概説 (東アジアの文化) 雅楽 舞衣楽 残 楽 三返 (東アジアの文化) 雅楽 萬歳楽 (東アジアの文化)</p>
<p><b>イ 南アジア世界</b> 南アジアの風土と諸民族、仏教の成立、ヒンドゥー教とカースト制度、イスラームの影響に触れ、南アジア世界の特質を把握させる。</p>	<p>(2) <b>イ 南アジア世界の形成</b> 南アジアの風土、インダス文明、アーリア人の進入以後の文化、社会、国家の発展に触れ、南アジア世界の形成過程を把握させる。</p>	<p>◇南アジア 〔神々と人間〕 ホーマの祭場 (ヴェーダ、仏教) 絵解き用神童 (ヒンドゥー教) 笛を吹く牧童のクリシュナ (同上) シヴァとその家族 (同上) 村の鬼神たち (同上) マンダラ (仏教) マニ車 (仏教) ジナ像 (ジャイナ教) イスラム教寺院の扉 (イスラーム) シク教経典と経典台 (シク教) サリー (南アジアの諸民族) 〔くらしと文化〕 生菓 (南アジアの風土) ココナッツ削り (同上) ◇東南アジア 〔衣服と装身具〕 腰衣 (東南アジアの風土) スンパ女性の衣裳 (同上) 説法台 (仏教) 寺院の壁画 (ラーマヤーナ) 〔音楽と芸能〕 ワヤン人形 (ラーマヤーナ、マハーバーラタ)</p>	<p>◇南アジア インドのサリー (南アジアの諸民族) ネパールの面づくり (ヒンドゥー教) ◇東南アジア バガンの仏教遺跡 北部タイ農村の田植え (東南アジアの風土) タイ仏教寺院の奉納儀式 (上座部仏教) タイの托鉢僧 (上座部仏教) タイの水田稲作 (東南アジアの風土) スパエクト・トム (カンボジアの大型彫絵芝居) (ラーマヤーナ) ワヤンとマハーバーラタの物語り ワヤン・クリットの物語り ジャワの彫絵芝居 ワヤン・クリット (以上、マハーバーラタ) 中部ジャワの宮殿と更紗 (木綿布) ジャワ更紗の技法 (木綿布) バリ島の結婚式 (ヒンドゥー教)</p>
<p><b>ウ イスラーム世界</b> 西アジアの風土と諸民族、イラン文明の伝統、イスラームの成立と拡大に触れ、イスラーム世界の特質を把握させる。</p>	<p>(2) <b>ア 西アジア・地中海世界</b> 西アジア・地中海世界の風土、オリエン文明の盛衰、イラン人の活動、エーゲ文明、ギリシア・ローマ文明に触れ、西アジア・地中海世界の特質を把握させる。</p> <p>(3) <b>ア イスラーム世界の形成と拡大</b> アラブ人とイスラーム帝国の発展、トルコ系民族の活動、アフリカ・南アジアのイスラーム化に触れ、イスラーム世界の形成、拡大の過程を把握させる。</p>	<p>◇西アジア 〔農耕・牧畜の生活〕 フェルト製外とう (西アジアの風土・生活) ヒツジ用鈴 (西アジアの風土・生活) 水袋 (西アジアの風土・生活) ラクダ用鞍 (西アジアの風土) 〔衣と装身具〕 女性用ヴェール・衣服 (イスラーム・生活) 男性用衣服と頭覆い (西アジアの風土) 〔都市の生活〕 タイル (イスラーム) 彫絵人形 (カラギョズ) (西アジアの諸民族) コーヒーひきとコーヒーポット (西アジアの生活) 水タバコ (西アジアの生活) 〔イスラーム教の世界〕 カアバ神殿の垂れ幕 (イスラーム) コーランとコーラン台 (イスラーム) じゅうず (イスラーム) 礼拝用じゅうたん (イスラーム) ◇音楽・言語 〔書体〕 楔形文字 (西アジアの文字)</p>	<p>◇西アジア イスラームの断食 (イスラーム) トルコのチーズづくり パンの発達史 乳製品の歴史 遊牧民の歴史 (西アジアの風土・歴史) イランの購入たち (イラン文明) ◇アフリカ アンダルシア音楽 (アラブ音楽) フェズのメディアナを歩く (イスラーム都市)</p>
<p><b>エ ヨーロッパ世界</b> ヨーロッパの風土と諸民族、ギリシア・ローマ文明の伝統、キリスト教に触れ、ヨーロッパ世界の特質を把握させる。</p>	<p>(3) <b>イ ヨーロッパ世界の形成と変動</b> ビザンツ帝国と東ヨーロッパの展開、西ヨーロッパの封建社会、都市の発達と王権の伸長に触れ、キリスト教とヨーロッパ世界の形成、変動の過程を把握させる。</p>		
<p><b>オ ユーラシアの交流圏</b> 8世紀以降の諸地域世界の交流の深まりに触れ、ユーラシア規模の交流圏の成立とそれを支えた都市や港</p>			

<p>のネットワークを把握させる。</p> <p>(ア) 海域世界の成長とユーラシア ムスリム商人のインド洋進出、中国商人の南シナ海進出を中心に、ユーラシアの諸海域を結ぶネットワークの成長を把握させる。</p>			
<p>(イ) 遊牧社会の膨張とユーラシア 内陸アジアの騎馬遊牧民、オアシス都市民の活動を中心に、陸のネットワークの成長とモンゴルによるユーラシアの一体化を把握させる。</p>	<p>(2) 諸地域世界の形成 ア 西アジア・地中海世界 イ 南アジア世界の形成 ウ 東アジア・内陸アジア世界の形成</p> <p>(3) 諸地域世界の交流と再編 ア イスラーム世界の形成と拡大 イ ヨーロッパ世界の形成と変動 ウ 内陸アジアの動向と諸地域世界</p>	<p>◇中央・北アジア [農耕と遊牧の文化] カザフの天幕（遊牧民の生活） トルクメン・ウズベクの民族衣装 キルギスの花嫁衣装（遊牧民の生活） [モンゴル遊牧民の文化] モンゴルの天幕（遊牧民の生活） ツァムの面（信仰、チベット仏教） 馬乳酒用革袋と攪拌棒・酒の蒸留装置（遊牧民の生活） モンゴルの衣装（遊牧民の生活） 馬頭琴（遊牧民の生活） アラグ（牛糞用籠）、熊手（遊牧民の生活） すもう用衣装（遊牧民の文化） ◇中国地域の文化 [草原・高原の文化] じゅうたん（ウイグル、オアシス民）</p>	<p>◇中国 ウイグル族の生活（オアシス民） ウイグル族のオアシス（オアシス民） トルファンへの遺跡（オアシス都市） 天山南路のオアシス（オアシス都市） ◇中央・北アジア キルギス族の生活（シルクロードの遊牧民） 馬乳酒の祭り（モンゴル遊牧民） モンゴル遊牧民の住まい（モンゴル遊牧民）</p>
<p>(ウ) 地中海海域とユーラシア イタリア商人による東方貿易とイスラーム文明のヨーロッパへの流入を中心に、ユーラシア、アフリカとつながる地中海交流圏の成長を把握させる。</p> <p>(エ) 東アジア海域とユーラシア 元の大都を拠点とする東西交流と黄海や東シナ海における交易の活性化、倭寇、勘合貿易、琉球王国の交易活動を中心に、日本列島を含む東アジア海域の交流圏としての成長を把握させる。</p>		<p>◇日本の文化 [暮らしの用具] 山原船 [シンボルとしてのアイヌ衣装] 山丹服（蝦夷錦）</p>	<p>◇アフリカ アンダルシア音楽（アラブ音楽）</p>
<p>(2) 一体化する世界 16世紀以降の世界商業の進展と産業革命後の資本主義の確立を中心に、世界の一体化の過程を理解させる。その際、ヨーロッパの動向と日本などアジア諸国の対応に着目させる。</p>	<p>(4) 諸地域世界の結合と変容 アジアの繁栄とヨーロッパの拡大を背景に、諸地域世界の結合が一層進んだことを把握させるとともに、主権国家体制を整え工業化を達成したヨーロッパの進出により、世界の構造化と社会の変容が促されたことを理解させる。</p>		
<p>ア 大航海時代の世界 大航海時代のヨーロッパとアフリカ、アメリカ、アジアとの接触・交流を扱い、16世紀の世界の一体化への動きを理解させる。</p>		<p>◇アフリカ アシャンテ王国の分銅（大西洋の奴隷貿易） 装身具（トンゴ王）（大西洋の奴隷貿易）</p> <p>◇アメリカ 諸みち（アメリカの生活） ジャガイモ・トウモロコシ等（アメリカの食物） サトウキビ搾り機（砂糖プランテーション） 衣装（ヨーロッパとアメリカの交流） ◇音楽・言語 インカのキープ（結綿）</p>	<p>◇アフリカ フルベ族 村の生活 ボゴの王さま-北カメルーン- ボゴの音楽 ガウンデレの音楽 （以上、アフリカ人の社会、生活、文化） ゴレ島-奴隷の島から文化の島へ-（大西洋の奴隷貿易） ◇アメリカ アンデス高地の一日（アメリカの生活） アンデス高地の農耕と牧畜（アメリカの生活）</p>
<p>イ アジアの諸帝国とヨーロッパの主権国家体制 アジアの諸帝国の政治と社会、ヨーロッパの主権国家体制の成立、大西洋貿易の展開を扱い、17世紀及び18世紀の世界の特質を理解させる。</p>	<p>ア アジア諸地域世界の繁栄と成熟 明・清帝国と朝鮮や日本との関係、東南アジア海域世界とイスラーム世界の動向を扱い、16世紀から18世紀にかけてのアジア諸地域世界の特質を理解させる。</p> <p>イ ヨーロッパの拡大と大西洋世界 ルネサンスと宗教改革、新航路の開拓、主権国家体制の成立、大西洋貿易を扱い、16世紀から18世紀にかけてのヨーロッパ世界の特質とアメリカ・アフリカとの関係を理解させる。</p>	<p>◇アメリカ サトウキビ搾り機（砂糖プランテーション）</p>	<p>◇アフリカ ゴレ島-奴隷の島から文化の島へ-（大西洋の奴隷貿易）</p>
<p>ウ ヨーロッパ・アメリカの諸革命</p>	<p>ウ ヨーロッパ・アメリカの変革と国民形成</p>		

産業革命、フランス革命、アメリカ諸国の独立、自由主義と国民主義の進展、拡大する貿易活動を扱い、ヨーロッパ・アメリカにおける資本主義の確立と国民形成を理解させる。	産業革命、フランス革命、アメリカ諸国の独立など、18世紀後半から19世紀にかけてのヨーロッパ・アメリカの経済的、政治的変革を扱い、産業社会と国民国家の形成を理解させる。		
<b>エ アジア諸国の変貌と日本</b> ヨーロッパの進出期におけるアジア諸国の状況、植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折、伝統文化の変容、その中で日本の対応を扱い、19世紀の世界の一体化とその特質を理解させる。	<b>エ 世界市場の形成とアジア諸国</b> 世界市場の形成、ヨーロッパ諸国のアジア進出、オスマン、ムガル、清帝国及び日本などアジア諸国の動向と改革を扱い、19世紀のアジアとヨーロッパの関係を理解させる。 <b>オ 帝国主義と世界の変容</b> ヨーロッパ諸国によるアジア・アフリカの植民地化をめぐる競合とアジア・アフリカの対応を扱い、19世紀後期から20世紀初期の世界の支配・従属関係を伴う一体化と社会の変容を理解させる。		
<b>(3) 現代の世界と日本</b> 地球規模で一体化した現代世界の特質と開閉過程を理解させ、人類の課題について考察させる。その際、世界の動向と日本とのかかわりに着目させる。	<b>(5) 地球世界の形成</b> 科学技術の発達や生産力の著しい発展を背景に、現代世界は地球規模で一体化し、相互依存を強めたことを理解させる。また、国際対立と国際協調、科学技術と現代文明などの観点から20世紀の歴史の特質を考察させ、未来を展望させる。		
<b>ア 急変する人類社会</b> 輸送革命、マスメディアの発達、企業や国家の巨大化、社会の大衆化と政治や文化の変容、公教育の普及と国民統合などを扱い、20世紀という時代の特質を人類史的視野から把握させる。	<b>ア 二つの大戦と世界</b> 二つの大戦と総力戦、ロシア革命とソヴィエト連邦の成立、大衆社会の出現と全体主義、世界恐慌と資本主義の変容、アジアの民族運動などを扱い、20世紀前半の世界の動向と社会の特質を理解させる。		
<b>イ 二つの世界戦争と平和</b> 第一次世界大戦と第二次世界大戦の原因や総力戦としての性格、それらが及ぼした影響を理解させ、平和の意義などについて考察させる。			
<b>ウ ミソ冷戦とアジア・アフリカ諸国</b> 第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立、アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立を理解させ、核兵器問題やアジア・アフリカ諸国が抱える問題などについて考察させる。	<b>イ ミソ冷戦と第三勢力</b> 米ソ冷戦の展開、アジア・アフリカ諸国の独立と紛争、平和共存の模索と多極化の進展を扱い、冷戦期の世界の動向を理解させる。		
<b>エ 地球社会への歩みと日本</b> 1970年代以降の市場経済の世界化や地球規模での問題の出現を理解させ、日本が世界の諸国、諸地域と多様性を認め合いながら共存する方向などについて考察させる。	<b>ウ 冷戦の終結と地球社会の到来</b> 市場経済の世界化、東欧諸国の民主化と冷戦の終結、ソヴィエト連邦の解体、アジア経済の急成長、地域統合の進展などを扱い、1970年代以降の世界と日本の動向を理解させる。		
<b>オ 地域紛争と国際社会</b> 冷戦終結後の世界で起こった地域紛争の原因や歴史的背景を追究させ、国際社会の変化や国民国家の課題などについて考察させる。	<b>エ 国際対立と国際協調</b> 核兵器問題、人種・民族問題、第二次世界大戦後の主要な国際紛争など、現代の国際問題を歴史的観点から追究させ、国際協調の意義と課題を考察させる。		
<b>カ 科学技術と現代文明</b> 原子力の利用、情報科学、宇宙科学の出現など現代の科学技術の人類への寄与と課題を追究させ、人類の生存と環境、世界の平和と安全などについて考察させるとともに、国際的な交流と協調の必要性に気付かせる。	<b>オ 科学技術の発達と現代文明</b> 情報化、先端技術の発達、環境問題などを歴史的観点から追究させ、科学技術と現代文明について考察させる。 <b>カ これからの世界と日本</b> 国際政治、世界経済、現代文明などにおいて人類の当面する課題を歴史的観点から追究させ、これからの世界と日本を展望させる。		

備考：本表は、国立民族学博物館編『国立民族学博物館展示ガイド』（千里文化財団、2000年）、『2002ビデオテーク【番組一覧】』（国立民族学博物館、2002年）を参考にして作成した。